

Dance with Heart  
The Kikunokai Troupe  
We are burning with enthusiasm  
in creating national art for the new era.  
Chairperson Michiyo Hata

# 日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会

〒161-0031  
東京都新宿区西落合2-21-23  
03-5983-6001(代表)

菊の会京都八瀬研修所

〒601-1254  
京都市左京区八瀬野瀬町10  
075-712-8701(代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



千葉県知事  
堂本暁子

Akiko Domoto

私はこれまで何度も舞踊集団「菊の会」の千葉公演の舞台を拝見しました。その時の感想を一言でいえば、本物の出会った——こう申し上げる他に言葉がありません。稽古に稽古を重ねたのでしようが、それがここまで昇華するものかと感心しきりです。社会のボーダレス化は、文化・スポーツの世界にまで及び、相撲界はその象徴です。そこから新たな文化の創出が始まるのかもしれない。また、歌舞伎や能、狂言、長唄

などの日本の伝統芸能に携わる方々においても、伝統を踏まえながらも新しい文化を積極的に取り入れ、育てる動きが盛んになってきているとお聞きしています。代表の畑道代さんは、日本の各地を回り、土地の古老や民俗芸能の保持者を訪れ、伝承の聞き取り調査を自らなされ、作品の中に織り込まれるそうです。黒澤明監督の映画「夢」の振付けを、監督の指名で畑道代さんが担当されたことも「一

流の人は逸材を知る」との諺のとおりだと思えます。千葉県は、豊かな自然や穏やかな気候風土のもと、農業漁業を中心とした古くからの産業に根ざした数多くの文化が育まれてきました。また、鎌倉や江戸、遠くは近畿地方との交流も活発に行われ、多様性に満ちた特色ある文化も形づくられました。そして今日、県内各地に伝承されている伝統的な郷土料理や郷土芸能、民話などの生活文化を守り、伝えていこうとする活動

の環が大きな広がりを見せています。これからは物の交流に加え、人の交流の時代です。大勢の方々が千葉県にお見えになって、千葉県の素晴らしい伝統芸能にも接してほしいと思います。そうした時代のためにも舞踊集団「菊の会」が千葉県でも大いに活躍していただき、千葉県にある題材を発掘し、作品へ昇華されることを心から願っています。



風薫る爽やかな季節となりました。皆様にはお健やかに過ごしの事と存じます。お蔭様で今年菊の会は創立三十五年目を迎える事が出来ました。心から感謝申し上げます。一月の新春公演を皆様に支えて頂き賑やかに開催させて頂き、二月、三月、四月のアトリエ公演、そして若い舞踊家達の会「つき会」を五月に、六月には海外派遣記念公演を行い、マグレブ諸国へ海外公演に出発致します。七月のアトリエ公演、八月には待望の年に一度の教室発表会と続いています。忙しさと目のまわる程ですが、この上ない幸せな事だと思えます。更に心を引き締めて精進して参ります。今後共、御指導、御鞭撻賜ります様、お願い申し上げます。

尾上菊乃里こと  
畑道代





「織姫」



「今昔物語」



「迎春の宴」



長唄「水仙丹前」



「日本の心」

# “アットホームなアトリエ公演”

## 舞

踊集団「菊の会」も創設して、今年35年を迎え、国内はもとより海外公演でも好評を博し、今や押しもおされぬ舞踊集団に成長した勇姿は目覚ましい。

大劇場での「菊の会」公演では多くの舞踊劇作品が公演されており、一般的にはその印象が強いが、近年東京・京都の両スタジオで催される「アトリエ公演」が静かなる人気に上っている。100人前後の観客の前で演じるのであるから、観客には親近感ももて、ライブハウスの感覚に人気が秘密が隠されているのである。

また、番組内容も1部は古典作品を1曲10分前後に集約し、見せ場を上手く振付・構成しているの。舞踊ファンのみならず親しみ易く、楽しく見られるのである。2部の菊の会舞踊選集ではニューミュージックなどの音楽を使用しながらも異質さを感じさせず、伝統芸能の特徴を生かしている。これら演出面にも地道代表の構成・振付に対する素



「古都千年」



「未来の力」



「共に歩む」

晴らしい感性が発揮され、それに応えるメンバーもベテランから若手たちの真剣な表情での演技を目の当たりに見ていて気持ちが良い。

例えば場面転換にしても限られた空間、全くの暗転の中で、道具立てや出入りすべてがスムーズに行われるなど、日頃の稽古の成果が如実に物語っている。また、最近ではベテランメンバーが次代を担う若手育成のために、裏方役に回り、畑代表の補佐役としても活躍するなど、「菊の会」の前途は洋々で「アトリエ公演」をステップに、舞踊界発展のためにも二十一世紀に大きく羽ばたいて欲しい。



「演劇と舞踊」  
主幹 大中博雅

Hiromasa Onaka

## 舞踊家の条件

舞踊評論家

西形節子

古今の名画、彫刻や優れた工芸などに接した時、また舞台の演劇音楽、舞踊から胸のときめく感動を覚え、明日への原動力となる糧を得て我々は平和な日々を元気に過ごせるのではないだろうか。

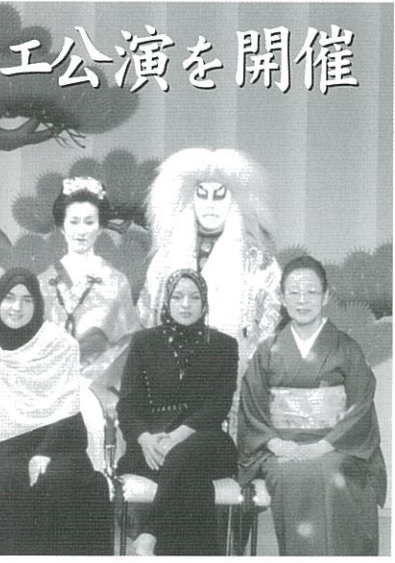
暮らした中で心の癒しを求め、無形の芸術が潤いをもたらしてくれているのである。絵画や美術工芸は形は残りますが、音楽・舞踊は一瞬の時の感動を与えることができる。幕が閉まる時、二時の勝負に賭けるしかありません。なかでも舞踊は身体を素材にした芸術、生身の日々とともに創り、表現しなければならぬ宿命を負っているのです。それを舞台上に体現し、作ることが舞踊家に課せられた使命なのである。

「学ぶ」という語は「真似ぶ」からはじまると聞きました。故吾妻徳穂師は「芸術を志すにはまもる。破る。はなれる。」この三つの言葉に尽きますね。」と含蓄のある教えを残されました。

舞踊は美しい姿形の美、動きの流麗さで魅了するの第一の条件と誰しもが思うことでしょう。でもそれだけでは観客はすぐに飽きてしまいます。踊り手の想いが舞台と客席の堺をこえて伝わってこそ、初めて感動を呼ぶ舞踊芸術となるのだと思います。観客に感動を与える舞踊家になるには、いったいどうすればよいのでしょうか。

古典であれ創作であれ舞踊の心は、頭脳で理解することは容易です。けれども、想いだけあつても身体がポキッブレイクが不足していれば舞踊として伝えることはできません。まず自身の身体で想いを伝える技の修練が舞踊家の必須条件となりましょう。日本の伝統的な舞踊の動きの基本は古典といわれる歌舞伎舞踊の振り、これをしっかりと身体にたたき込んで、そのままに表現してみることが、まず第一歩。そして自身のなかで、よく咀嚼して自分の作品として再現することができるようになれば、いくらか観客に近づきかもしれません。さらに自身の肉体が想いを伝えられる自由を獲得したときに、本物の舞踊家になったといえるでしょう。

肉体とともに消える芸術、この一瞬を大切に生きたいですね。



## エ公演を開催

10名が在アルジェリア日本国大使館「シャッキョウ」「寿菊三番叟」



## 公演用

菊の会スタジオの公演のために新調したのことに。小劇場の、3日間6回公演のために手間ひまをかけ、多額な出費をしている費沢にはびっく

という言葉です。演劇でも文学座アト





野田市長

根本 崇

Takashi Nemoto



# 「菊の会」の更なる「発展」を願う

ここに、舞踊集団「菊の会」が、創立35年目を迎えました。心からお慶び申し上げます。貴会は、昭和47年に畑道代様が代表となり、日本の踊りが身近な舞踊芸術として存在することを願って創設。以来、畑代表をはじめとする関係者の皆様方の弛まぬご努力により、今日を迎えましたが、この間、文化庁主催の芸術祭で優秀賞を受賞、海外公演の実績に対し外務大臣表彰、平成9年から連続9年間は、東京新聞社主催の「全国舞踊コンクール」において上位入賞を果たすなどの、輝かしい実績があります。

また、公演の場も、国内だけでなく、ニューヨーク、ロサンゼルスなどで海外公演を行うなど、日本の美、日本人の心が通った舞台づくりを目指し幅広い活動を展開しております。深く敬意を表する次第です。私は、貴会と出会ってから7年程となりますが、公演のご案内を頂きますと、時間の許す限り、拝見させていただき、至福のひとときを過ごすとともに、男性会員の力強さ、女性会員の艶やかさ、加えて調和のとれたチームワークにより演じられます素晴らしい舞台に魅せられております。

これまで、当市では、公演するたのめ、の広さと機材を備えた相応しい会場がなく、公演が行われませんでした。が、今後は、工夫をし、都合がつくようであれば、市民の皆様方に日本舞踊の優雅さを披露いただければと望んでおります。今後も、創立当初の目的であり、まず日本舞踊のすこやかな伝承と誰からも親しまれ、理解される舞踊の創造を目指して、ご精進されますことを願っております。結びに、貴会の益々のご発展と代表の畑道代様をはじめとする関係者の皆様のご健勝・ご活躍を心からご祈念申し上げます。



義太夫「延年三番叢」



常盤津「釣女」



今年のアトリエ公演は、二月に『立春に舞う』（都風流・釣女・舞踊春に舞う）（水仙丹前・三社祭・舞踊選集「光に向って」）と題して、東京・四月には桜満開の京都で『春宴に舞う』（流れ・扇・身替座禅・舞踊選集「リ爽やかな春の訪れ」とともに、梅や桃、菜の花そして桜花と季節の彩りを肌からご好評の声を多く寄せていただくことが出来ました。昨年に引き続き指しアトリエ公演に力を入れ、今後も7月に東京、10月に京都で開催の予定



アルジェリアの将来を担うアルジェリア国立行政学院 (ENA) の学生使館からの要請で、3月25日に京都菊の会八瀬研修所に来館され、を観賞され懐石料理等日本文化に触れ、京都の春を楽しまれました。



演劇・舞踊評論家

藤田 洋

Hiroshi Fujita



りませんが、そこには大 劇場では味わえない、 手作りの暖かさがあって、つてしまうのですが、私 人間のふれあいがない、 は新劇の若い人達がど 霧囲気を醸し出してい うやって費用を切り詰 めようかと必死になっ ています。日本舞踊でアト リエを持つて公演してい るところは、ほかに私は 知りません。稀有だし、 それができることは演 じる側、見る側、両方 にとつて意義ある「場」 であることに間違いあ りません。

今回は第一部が女性 の「水仙丹前」と男性 の「三社祭」、第二部が 菊の会らしい舞踊選集 「光に向って」の九つの 組曲でした。

衣裳の配色、デザイ ンがよくて、注目したの で、構成・振付の畑道代 さんに聞いたところ、こ

小空間の舞踊の醍醐 味は、客席に呼吸まで 伝わる親密感があるこ と。それだけに怖い場 だなど改めて感じまし た。そして、やはり工房 が原点になるべきだと いう原則を知らしめて くれたことが、わたしの 結論になります。

【舞 姫】



【D・N・A】



【国ノ狭土】



【同上】





# 菊の会公演予定

Kikunokai information

## 【第24回友の会総会と懇親パーティー】

〈日 時〉4月23日(日) 総会11時 シルバールーム  
懇親会12時 ローズルーム  
〈会 場〉東京會館  
〈会 費〉2万円

## 【第8回さつき会】～若者たちの舞踊会～

5月5日(金・祝)2時開演 中央会館(銀座プロッサム)  
〈入場料〉全席自由¥3,800(当日¥4,300)

## 【日本のおどり】～伝統と創造～

6月4日(日)午後2:30開演 入間市市民会館  
6月7日(水)午後2:30/6:30開演 かめありリリオホール  
6月9日(金)午後2:30/6:30開演 ふれあいプラザさかえ  
〈入場料〉全席自由¥5,000 文化ホール

## 【菊の会アトリエ公演】東京スタジオ(予定)

7月21日(金)～23日(日) 菊の会スタジオ  
〈入場料〉¥4,200 全席自由(当日4,500円)

## 【第32回教室発表会】

8月23日(水)前夜祭  
24日(木)教室発表会  
〈会 場〉品川きゅりあん  
〈入場料〉無料(但しチケットがないとご入場出来ません。)



## Kikunokai News



菊の会の歴史と  
多くの作品を網羅した

## 第2回 菊の会ポスター展を開催

菊の会創立35年目を晴れやかに迎えた今年1月26日アミューゼ柏・プラザホールに於いて、第2回目の菊の会ポスター展を新春公演と同時に開催しました。

文字通り35年の菊の会の歴史を彷彿とさせる1枚1枚のポスター。芸術祭優秀賞受賞作品の思い出深いポスターから、阿国ゆかりの京都南座での舞踊劇「阿国かぶき」公演、九州博多座での「博多どんたく譚」公演、又最近文化庁国際芸術交流支援事業として海外公演や菊の会設立当初の海外公演を含め27か国に及ぶ海外での公演の珍しいポスターや懐かしいポスター等々に込められた内容は来場者の注目を集めました。

初めての来場者は勿論、ずっと菊の会を観て下さって来た人達も菊の会の歴史と作品の多さに感嘆なおももちで一点一点に見入っていました。

また菊の会ファンも一枚一枚のポスターに「これも観た、これも知っている」とご友人に誇らしげに語る姿が印象的でした。又スタッフ、キャストもそれぞれがポスター等をあらためて感慨ぶかく、ご来場者の邪魔にならない様見学する姿が印象的でした。ポスター展の好評を聞き9月には富士見市、金沢市でも開催を望む声があり、現在、検討中。実現すれば富士見市では9月24日(日)、金沢市では9月27日(水)の開催となります。

## マダレス諸国公演視察旅行記

# 国境を越えて



菊の会事務局  
谷元久美子



在チュニジア小野大使御夫妻と共に

今年修交50周年を迎えたマダレス諸国への文化交流を計画し、その現地視察を2月26日から3月6日の日程で行い無事帰国しました。チュニジア・アルジェリアは地中海に面し、モロッコ(ラバト・カサブランカ)は大西洋に囲まれ、日が沈む時の景色は映画の一場面を思わせる美しさで、今もその情景が目に浮かんできます。移動を含め1週間の日程で3か国4都市を訪問するというハードスケジュールでしたので、当然ながら特に観光も出来ず、車窓から眺めるだけの観光となりました。街中には見事なアロエ・ベラや柑橘の木が自然に繁り、手をのばせば直ぐ取れる所に生え、海も陸も自然に溢れ、世界遺産が数多く残っている素晴らしい国々でした。しかし、公演を行うとなりますと様々な問題があります。しかしこの度の公演を大成功させる為、全力で取り組みたいと更なる思いにかられる視察旅行となりました。



## 「あの頃と 変わったのは・・・」

菊の会 獅子の会 青田義則

小学校二年生の時、私は芸術祭優秀賞受賞作品で菊の会の代表作の一つ、舞踊劇「カッチャいかねかこの道」で畑代表扮する主人公佐枝の子供役の健作で出演させていただきました。20年以上前なのですが、今でも強く印象に残っているのがカッチャ(お母さん)に抱かれ捨て子であるという出生の秘密を明かされるシーンで、私はカッチャの腕の中で話を聞いているだけなのですが、本当にカッチャが泣いていて自分は私生活でも本当に捨てられたんじゃないかと錯覚するほど舞台に引き込まれたことがありました。子供ながらも畑先生は演技をしているのではなく役そのものになっていたのだと思いました。

現在数々の舞踊劇などに出演させていただいておりますが、年を重ねるごとに演技の難しさを痛切に感じております。

自分もいつか相手を現実の世界から隔世させることが出来るくらいその役になれるよう日々勉強、研究して参りたいと思っています。数年前「カッチャいかねかこの道」の再演があり、畑先生は変わらずカッチャをなさっておられました。自分が変わったのは身長が二倍になったことでしょうか・・・。

芸は一生勉強だと先人の言葉とし

て耳にしてきましたが、子供の頃毎日が面白くて楽しかった舞台や稽古がだんだん難しくなって、気が付くと自分の心が楽しい、嬉しいと感じる瞬間が減っているのではと反省する昨今です。勿論、自分が満足してしまう事は、いけない事だと思いますが、同時に自分が心躍る喜びを忘れてはいけないと思う今日この頃です。

子供の頃全てに興味があって、先生や先輩の舞台にも素直に感動し目を見張った自分を忘れず、これからも楽しみながら勉強して参りたいと思います。



プロフィール  
青田義則

Yoshinori Aota

3歳より畑道代に師事、文化庁芸術祭優秀賞受賞作品「カッチャいかねかこの道」の初舞台で少年時代の健作役に抜擢される。その他、菊の会の多くの作品に出演。2005年全国舞踊コンクール(東京新聞社主催)邦舞第1部において義太夫「延年三番叟」で2位入賞。現在、若手の中心として活躍。